

2018年 展覧会

2月22日ー25日 COLLECT LONDON / Saatchi Gallery

3月23日ー26日 Asia Contemporary Art Show / 香港

6月13日ー19日 JR 名古屋タカシマヤ 美術画廊 (個展)

7月19日ー25日 広島福屋 美術画廊 (個展)

8月22日ー28日 下関大丸 美術画廊 (個展)

9月19日ー23日 TRESOR18 / スイス パーゼル

西中千人通信

2018年 早春号

2017年は
長年の構想を実現できた年でした。

私の表現が社会と繋がり
アーティストの役割も実感することができました。

2018年は
「自分壊し」に磨きをかけ、
新たな表現を皆様と共有できるよう
境界を超えて突っ走ります。
そして、共に変化を楽しめる年にしてまいります。

お力添えいただけましたら 嬉しく存じます。

Nishinaka Yukito Glass Studio

〒299-4104 千葉県茂原市南吉田 2967 TEL : 0475-34-7850
<http://nishinaka.com> e-mail : ichiban@nishinaka.com

西中千人

一瞬に煌めく永遠
ガラスアートの瞑想空間へ

日本橋高島屋
1階正面ホール
2017年
5月31日～6月20日



異なる宇宙に迷い込んだかのようなアート空間「一瞬に煌めく永遠」。「宇宙と一体化する」をコンセプトに、光や水、命のような無限の循環を表現しました。市場から回収したガラスびんを溶かしてアート作品を制作する取り組みは、リサイクルや持続可能な社会について考えるきっかけでもありました。プロジェクトはNHK岐阜が特集で取り上げ、「おはよう日本」でも放送されました。企業にアーティストの新風を吹き込むことで、生産現場の人たちの情熱がアップし、モノづくりの革新に繋がる点にも着目されています。 (日本耐酸壘工業との共同プロジェクト) 協力/庭師 木村博明



写真/森健児

ガラスの呼継 よびつぎ

一度作った器を割り、ヒビを魅せて継ぐ『ガラスの呼継』。
パリ、ロンドン、ロスアンゼルス、
東京、金沢、岐阜、米子、岡山、長崎で発表いたしました。

銀座駅 地下コンコースのウィンドウ



松井ミチルさんの
和菓子と。

日本文化を紹介するウェブサイト →
"ジャパン オブジェクツ" で
「先入観を壊す十人の
ガラスアーティスト」に選ばれました。

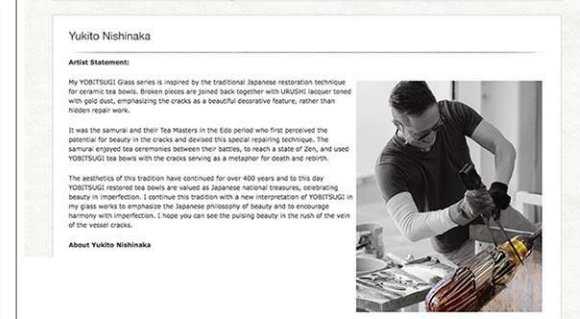
← オックスフォード大学
アシュモレアン博物館にて日本文化の
今を感じていただく。呼継水指「爽味」
(写真 / Mizen Fine Art)



日経、読売、東京新聞で
呼継について取材を受けました。



テレビ朝日「デザイン・コード」
工房での取材で制作を公開。
ガラスの呼継に込める想いを
語りました。2月放送予定。



Art Alliance for Contemporary Glass
2018年1月 今月のアーティストとして
紹介されました

徳島県鳴門市 市制施行 70 周年記念事業

『NARUTO ART GATE ILLUMINATION 2017』

2017年12月16日～24日 撫養川親水公園



屋外に「ガラスの神殿」を制作させていただきました。
昼間は現代版ガラスの枯山水庭園、夜は光と音楽に彩られた幻想的な神殿に変身して、壮大なイリュージョンが繰り広げられました。
設営には鳴門特産の青石を組み合わせ、地元の人の手を借りることで地域社会と繋がるイベントとなりました。
他ジャンルのクリエイターとの協働によりガラスの魅力が増幅され、公共の場で、多くの方に楽しんでいただくことができました。

協力／庭師 木村博明



脳ミソを刷新

2017年8月2日～8月23日

アムステルダムからイングランド、スコットランド、アイルランドを船で巡った。その後、チェコへ。



ゆったりとした時間を堪能できる海の上
スコットランド北端の崖っぷちを眺めながら船上で朝のストレッチ

ベルファスト
北アイルランド。
長い間カトリックと
プロテスタントを
分け隔てていた
Peace Walls 平和の壁。
高くて厚い憎しみと
絶望の鉄壁。
彼らの神が見たら
何と言うだろう?!



ガラス加工用の
ダイヤモンド工具を
特注している DIAS 社を訪問。
チェコは、モーゼル、
ボヘミアクリスタル等、
ガラス工芸の歴史が長い。
加工具は優れた職人の手技と
ハイテク機械により
生み出される。

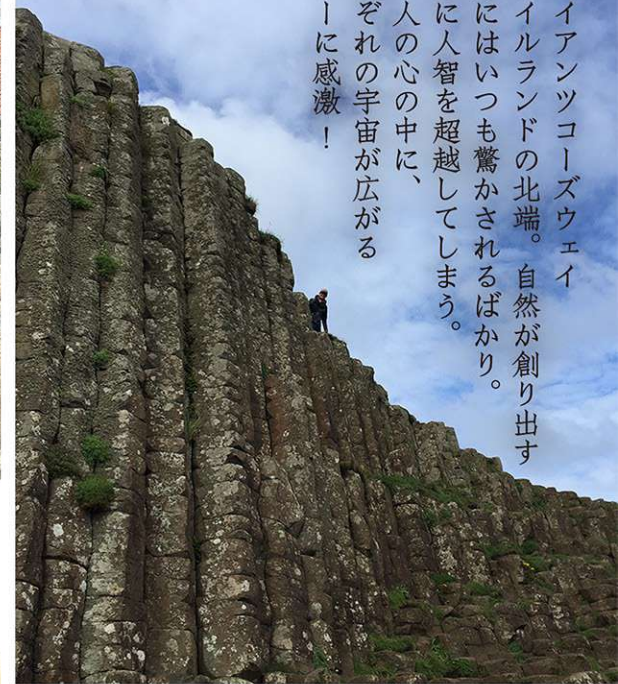


仏 モンサンミッシェルの沖合
100km にある小さなガーンジー島。
島の歴史と今を聴きながらガイドの
Dom と陽の中をサイクリング。



プラハから東に 70km。
クトナホラのセドレツ納骨堂。
地域開発のために墓地を掘り返した
際に出た人骨で組み上げた装飾は
圧巻、そして純粋に美しい。
死のとりえ方は、即ち、生の意味。

Giant's Causeway



ジャイアントンツコーズウェイ
北アイルランドの北端。自然が創り出す
造形にはいつも驚かされるばかり。
簡単に人智を超越してしまう。
見る人の心の中に、
それぞれの宇宙が広がる
パワーに感激!

プラハの教会。ナショナルシアターの
ソリスト達が奏でるコンサートを間近で。
楽器の音や歌声が、
天上から降り注ぐように響いてくる。
神々しい空間の中、呼吸や楽譜をめくる音、
奏者同士の目の合図までが伝わる。
鍛錬を積み重ねた生身の人間が繰り出す
表現は、堪らなく心に刺さる。



<対談>

古藤俊一氏

(有人宇宙システム株式会社
代表取締役)

× 西中千人

月刊 美術

2017年7月号より抜粋



2017年4月1日

林屋晴三先生が亡くなられた。

作品のアドバイスをいただいたり
茶席に参加させていただいたり
先生の美意識に

触れさせていただいてきた。

「自由にやり切りなさい。」

常に背中を押していただいた。

「力が入り過ぎるなら、入るだけ

入れなさい。歳を取ったら

力を入れようと思っても入らなくなるから、自然と枯れたアジがでる。」

「形を真似ても偽物だ。」そうお教えくださった。

もし、林屋先生に出会えていなかったら、

私は、この程度のバカでは済まなかったことは間違いない。

今でも「あぁ～ゆきとさん」と笑いながら叱ってくださる気がしてならない。



西中

古藤さんは私に「アーティストに必要なのは
世界観ではなく、宇宙観なんだ」と示唆してくれた方です。

（中略）

古藤

古藤さんの「この作品は宇宙だ」という言葉で目覚めた気がします。
気象衛星から送られてきた写真などを見ると、
自分が衛星にいて、宇宙から地球を見ているような感覚なんです。
西中さんの作品もそうです。自分が今、宇宙空間に浮かんでいるような
イメージでガラスの世界を見ることが出来ます。

西中

そこなんです。宇宙もアートもどれだけ自分のこととして
捉えられるかが重要です。今は宇宙なんて自分とは関係のない、
空想の世界だと考えている人が多い。

アートに対してと同様で、作者は有名なのか、価格はいくらなのか
という程度の関心しかない人がほとんどです。

つまり、アートを身近なものとしては捉えていません。
それはアートが人の心に届いていないからでもあるんですね。

最近、私は、アートは夜空に浮かぶ月の光のようなものじゃないかと
考えています。

古藤

月は自分で光を放つわけではなく、太陽の光を反射して
輝いているわけですが。

西中

アートもその作品自体が輝きを放っているというより、
見る人の心を揺さぶり、そのエネルギーを反射することで
光り輝くののだと思います。その光が混沌とした時代や社会を
照らす——それが真のアートだと思われ、
私がつくりたいのもそんな作品です。



松平不味公二百年遠忌記念茶会

護国寺 2017年10月29日

文化のパトローネージュ。

その美意識を慕って台風大雨の中、
全国から大勢が集まる。

200年後の世に大きな影響を与え続ける
不味公の生き様を感じさせていただいた。

